

豊川信用金庫

東日本大震災の復興支援をきっかけにボランティア休暇を導入

取組の ポイント

- ・東日本大震災の復興支援にボランティアを派遣したことをきっかけに、創立 75 周年の記念事業の一環としてボランティア休暇を導入
- ・ボランティア活動に関心がある部長が率先してボランティア活動に参加し、庫内の周知・啓発に力を入れている



取組の目的・概要

- ・平成 23 年度に 67 信金および関連団体を含め、総勢 654 名が東日本大震災の復興支援ボランティアに派遣。当金庫からは 2 回にわたり総勢 19 名が参加。
- ・このような中、平成 24 年 11 月に創立 75 周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として平成 23 年 10 月に「ボランティア休暇」を制定した。自発的・積極的な地域貢献活動を支援し、地域社会との連携をより強くすることを目的として制定された。
- ・対象のボランティア活動は、地域貢献活動や青少年の健全な育成を目的とした活動、スポーツ大会および各種競技大会の準備、運営事務局としての活動、環境保全活動、天災等による被災地支援活動などがある。
- ・ボランティア休暇は、1 年間で 5 日間付与され、取得回数は 1 か月に 1 回までとし、5 日以内での連続取得が可能としている。また、半日単位での取得も可能としている。
- ・嘱託、契約職員、パートについても利用可能である。ただし、勤続 2 年未満の職員は利用できないこととしている。

企業概要

[設立] 1937 年
 [事業内容] 金融
 [所在地] 愛知県豊川市
 [従業員数] 連結 555 名 (2017 年 3 月現在)

[年次有給休暇の取得率] 50.1%
 [年間休日数] 120 日程度
 [URL] <http://www.kawa-shin.co.jp/>

取組内容と特徴

ボランティア活動に関心がある部長が率先して休暇制度を活用

- ・ボランティア活動に関心がある部長が、ボランティア休暇や有給休暇を活用して東日本大震災の復興支援にボランティア活動に参加している。
- ・「自分に何ができるか」と考え、瓦礫の運搬などは個人では限界があるが、職員のボランティア派遣や現地で生産された商品を購入するなどを行っている。この一環で、「おのくん」という靴下で作られたぬいぐるみを毎回購入しており、この取組を職員に知ってもらうために研修センターに展示している。
- ・このような取組を通じて、石巻信用金庫など現地の人たちと仲良く交流ができ、情報交換なども行っている。



日頃から地域貢献の意識の向上に努める

- ・ボランティア休暇のきっかけは東日本大震災の復興支援にボランティアを派遣したことであったが、信用金庫の特性上、もともと地域に根差した業務を行っており、清掃活動や地域のお祭りなどにも積極的に職員が携わるような形をとっている。このような取組ともリンクすることから、ボランティア休暇を導入した。
- ・ボランティアは、基本的に自発的に実施するものであり、自分のやりたいことをやりたいようにやってくるということで、制度として設けられたボランティア休暇ではなく、自分の有給休暇を消化してボランティアに行くという職員もみられる。このこと自体は悪いことではないが、ボランティア休暇もうまく活用しながら地域貢献活動の活性化を図っていく必要がある。

さらなる地域貢献を目指して

- ・これまでの取組で、20代から50代まで幅広い世代が、自発的に手を挙げ東日本大震災の復興支援活動に参加した。震災復興支援は目に見える活動として、職員の地域貢献への意識醸成につながったと考えている。

(ボランティア休暇の取得人数：

H 23：19名、H 24：10名、H 25：5名)

- ・ボランティア休暇の真の目的は地域社会とのつながりの強化であり、全職員が常に周りに目を配り、住みやすい地域づくりに関わることが必要であると考えている。
- ・「信用金庫の仕事＝地域貢献活動」という認識のもと、今後もボランティア精神のある人材育成が求められる。

経営企画部 (20代 女性)

被害のあった海岸付近は、ほとんど更地の風景が続き、高く積まれた瓦礫や廃棄待ちの車置き場など、半年経っても片付けすら終わっていない現実を目の当たりにしました。

しかし、今回のボランティアではホテルや移動のバスも用意して頂けたお蔭で、初めてボランティアに参加した私でも苦勞せずに現地の方のお手伝いことができました。また、「観光したり食べたりすることも支援になる、被災地のことを忘れないでほしい」と言われた事が印象に残っています。

これからも自分にできる方法で支援していきたいと思いました。

制度利用者の声

